

— 研究報告 —

## NICU を退院した子どもの子育てに関する両親へのアンケート調査

白坂 真紀<sup>1)</sup>, 越田 繁樹<sup>2)</sup>, 桑田 弘美<sup>1)</sup>

1)滋賀医科大学医学部看護学科 臨床看護学講座 (小児)

2)滋賀医科大学医学部医学科 総合周産期母子医療センター

### Questionnaire survey on child-rearing life for parents of post-NICU baby

Maki SHIRASAKA, Shigeki KOSHIDA, Hiromi KUWATA

Department of clinical nursing, Division of Pediatric Nursing, Shiga University of Medical Science

Perinatal center, Shiga University of Medical Science

#### 要旨

NICU (新生児集中治療室) を退院した子どもの子育てについて両親を対象にアンケート調査を行い、父親と母親の結果を比較した。「最近一ヵ月間の気持ちや体調」「子育ての楽しさ」「子育ての困難感」についての質問の回答には有意差はなく、「自分のために使える時間の有無」「父親の育児関与」「父親の母親への精神的支援」については有意差を認めた。育児を困難に感じる事が両親ともに3~4割みられる一方で、子育ては楽しいという回答も8割ほど得られた。これは、家族関係形成への支援や育児不安の軽減に努めてきたNICU看護や継続的に支援している外来看護の成果ではないかと思われた。主な養育者となる母親が自分の時間を持ちづらい状況であることが改めて示されたが、そのようななかでも父親に比べると母親は、父親(夫)の育児関与や精神的支援について高く評価している傾向が見られた。母親に比べると父親は直接的に育児に関与する時間は少ないかもしれないが、父親としての役割を果たしているという自信ももってもらえるような支援も大切である。

**キーワード** NICU, 両親, 子育て, 小児科外来, フォローアップ検診

#### はじめに

日本の出生率は漸減傾向にあるなか低出生体重児の出生率は上昇しており<sup>1)</sup>、NICU (新生児集中治療室) の収容力不足は深刻な問題として取り上げられてきた<sup>2)</sup>。少子高齢社会の日本においてはとくに、数少ない子ども達一人ひとりの健やかな成長と発達が強く望まれている。子どもの成長発達には母親だけでなく父親の影響が大きく<sup>3)</sup>、その役割は期待されている。

今回、NICU を退院した子どもを養育する父親と母親の子育ての様子を明らかにすることを目的にアンケート調査を行った。

#### 研究方法

##### 1. 調査対象者

A 病院 NICU を退院し、小児科外来でフォローアップ検診を受けている子どもの両親である。

##### 2. 調査期間

2012年11月~2013年11月

##### 3. 調査内容

調査内容は、家族構成、出産時の状況、養育環境、外来フォローアップ健診に関する事、父親と母親それぞれの気持ちや体調、子育ての状況であった。調査票は「幼児健康度に関する継続的比較研究」<sup>4)</sup> (研究代表は衛藤隆氏) を一部参考にした。質問への回答は選択式とした。

##### 4. 調査方法

自記式質問紙調査法を用いた。小児科外来で子どものフォローアップ検診を担当する医師より両親へ、調査票を2部(父親と母親用)手渡し、調査協力依頼と説明を行った。研究参加を強制することがないよう

Received: January 13, 2017.

Accepted: April 5, 2017.

Correspondence: 滋賀医科大学医学部看護学科 臨床看護学講座 (小児) 白坂真紀

〒520-2192 大津市瀬田月輪町

kitamaki@belle.shiga-med.ac.jp

に、調査票は郵便による返送をもって同意を確認することとした。

## 5. 分析方法

分析は、SPSS20.0を用いて、各項目別に単純集計と記述統計を行い、父親と母親の2群間で $\chi^2$ 検定を行った。統計学的有意水準は5%とした。

## 6. 倫理的配慮

本学倫理審査委員会の承認を得て行った(24-100)。対象者には外来受診時に調査票を配布し、研究目的、方法、結果の公表について文書で説明した。調査への自由な参加、不利益からの保護、個人は特定されないことなどプライバシーの保護について保障した。

## 結果および考察

### 1. 回答率と対象の属性

NICUを退院した子どもの両親371組(父親と母親各742名)に調査票を配布し、154組(308名)より返信があった(回収率41.5%)。そのうち有効回答率は97.4%であり、家族背景等の基本情報が記載されている150組(300名)を分析対象とした。アンケート回答者の両親の年齢は、父親20~50歳代(平均年齢36.8±6.1歳)、母親20~40歳代(平均年齢34.7±5.0歳)であった。家族構成は、核家族126組(84.0%)、その他24組(16.0%)であり、双胎児を養育している家庭が19組あった(12.7%)。子どもの年齢は0~10歳で、内訳は0歳78名、1歳以上2歳未満28名、2歳以上3歳未満16名、3歳以上4歳未満10名、4歳以上5歳未満2名、5歳以上6歳未満8名、6歳以上8名であった。男児88名・女児81名であった。出生時の平均体重は2111±48.9g(600~3000g台)、分娩様式は経膈分娩52名・帝王切開分娩91名・不明7名であった。NICUの入院日数は平均40.7±4.8(1~420日)で、入院理由は低出生体重、早産、病気などであった。日中の主な養育者は(複数回答あり)、母親136名(76.4%)、父親(0.6%)、母親方祖父母16名(9.0%)、父親方祖父母5名(2.8%)、その他20名(11.2%)であった。保育園を利用している家族は32組であった。利用した経験のある社会制度やサービスについては、利用あり90名(60.0%)、利用なし60名(40.0%)であった。その内容は(複数回答あり)、一時預かり17名、病児保育2名、行政の育児支援事業38名、学童保育3名、子育て相談21名、有料の育児支援事業7名、子育てサークル28名、会社の育児支援8名、電話相談11名、産前休暇35名、産後休暇40名、育児休暇41名、その他6名であった。A病院小児科外来のフォローアップ検診における満足度については、「満足している」と回答した父親は130名(96.3%)で母親は137名(93.8%)であった。

### 2. 各質問項目の回答について

#### 1)「この一ヵ月間の気持ちや体調」(表1参照)

この一ヵ月間の気持ちや体調を質問した心身の健康に関しては父親と母親の間で有意差はなかったが、心身ともに体調が良好と回答した親は5~6割にとどまった。体調と気分については、両親ともに、気分の不調に比べ身体の不調を感じている親が多く、なかでも心身ともに調子が悪い母親が1割あり、子育て中の母親の健康への配慮や支援が求められる。同時に、母親や父親自身が自分の状況を把握し、心身の病気に至る前に助けを求められるよう、対処できる力をもつことも大切である。本調査対象の半数の52.0%が0歳児の、29.3%が1~3歳未満の幼児前期の子どもの両親であり、乳幼児は育児そのものに手がかかるうえに、夜間の拘束もあり、睡眠不足や疲労の蓄積つながり育児ストレスも大きい<sup>5)</sup>と言われており、その健康状態が憂慮される。

#### 2)「子育ての楽しさ」「子育ての困難感」(表2,3参照)

「子育ての楽しさ」と「子育ての困難感」に関する質問では、父親と母親の間で有意差は認めなかった。子育てに困難を感じる両親は3~4割ほどである一方で、両親ともに8割が子育ては楽しいと回答していた。出産後一定期間NICUに入院する子どもと家族は、治療のため親子が離れて生活することを余儀なくされる。そのため母親の育児不安が高く、母子関係の確立に困難を伴う。乳幼児虐待においてはNICU入院歴がある児や低出生体重児の占める割合が高いことの報告がされてきた<sup>6)</sup>。しかし、昨今のNICU看護は子どもの身体的なケアだけでなく、子どもだけではない家族全体へのファミリーケアも充実している。新生児看護におけるファミリーケアは、単に両親の心理的ケアを行うことではなく、NICUに新生児が入院するという心理的な危機状況を克服し、自らの力で家族を発展させていくことができるように支援する事であるといわれている<sup>7)8)</sup>。対象は、子どもの外来受診を継続しており、その満足度も父親と母親共にほぼ100%と非常に高く、NICUという難しい状況のなかで家族の良好な関係形成を目指した看護師の細やかな援助実践がされている<sup>9)</sup>成果ではないかと考える。

#### 3)「自分のために使える時間の有無」「父親の育児関与」「父親の母親への精神的支援」(表4,5,6参照)

父親に比べ母親の方が、自分のために使える時間が少ないという状況の中でも、父親に比べると母親は、父親(夫)の育児関与や自分(母親自身)への精神的支援について高く評価する傾向がみられていた。

「自分のために使える時間を持っていますか」という質問への回答項目の割合に両親間で有意な差が認められた( $p=0.008$ )。具体的には、「時間を持っています」と回答した父親は84名(56.4%)で、母親64名(43.2%)と父親が多く、「時間を持っていない」と

回答した父親は24名(16.1%)で、母親46名

(31.1%)と母親が多かった。特に主な養育者となる母親がその時間を持ちづらい状況であることが改めて示された。

さらに「お父様は育児をしていますか」という質問の回答項目の割合に両親間の有意差を認めた( $p=0.006$ )。育児を「(自分自身は)よくしている」と答えた父親50名(34.0%)に比べると、「(夫は)よくしている」と答えた母親は78名(52.0%)であり、父親(夫)は育児に参加していると認めている母親が多かった。6割ほどの父親が「(自分自身)時々している」87名(59.2%)と回答しており、「(夫は)時々している」と回答した母親62名(41.3%)に比べると、父親の育児参加については、父親自身が控えめな評価をしていた。一方で、「殆どしない」という結果は、父親と母親ともに同じ1割であった。父親自身が答えた実際に行っている育児の内容は(複数回答有り)、多い順に、お風呂(127名/20.0%)、オムツ交換(112名/17.6%)、遊び(111名/17.4%)、着替え(98名/15.4%)、食事援助(93名/14.6%)、寝かしつけ(71名/11.2%)、学習の援助(21名/3.3%)、その他(3名/0.5%)であった。

NICUを退院した子どもの父親は母親(妻)の心身の負担に関心を向け配慮していることも報告されており<sup>10)</sup>、そのような状況を把握しているがゆえに、父親自身の育児関与や精神的な支援が不足している傾向の結果につながったのではないかと思われる。父親の役割については、かつての「権威としての父親(稼ぎ手・子どもの社会化)」から近代家族の「父親不在(稼ぎ手)」の時代へと移行し、現在では「新しい父親(稼ぎ手・子どもの社会化・子どもの世話)」の模索がされている<sup>11)12)</sup>といわれてきた。役割が増加した現在の父親を労い、必要であれば支援の対象とする見方が大切ではないかと思われる。少子社会において、一人ひとりの子どもたちが健やかに発育できるよう、子どもを育てる父親と母親への支援のあり方を今後も考えていきたい。

## まとめ

1)NICUを退院した子どもの子育てが楽しいと回答していた両親は8割前後であった。これは、家族関係形成への支援や育児不安の軽減に努めてきたNICUとGCUの看護と、退院後も継続した外来診療と看護の成果が一端にあるのではないかと考えられた。

2)父親に比べると母親は、自分の時間が持てない状況にあっても、父親(夫)の育児関与や自身への精神的支援を評価していた。特に子どもの幼少期の育児は直接的ではないことも多いかもしれないが、大切な子育ての役割を父親が担っていることを、父親自身で肯

定的に捉えられるような支援の視点を持ちたい。

## 本研究の限界と課題

本研究の対象者が0~10歳と年齢の幅が広い子どもの両親の回答を分析していることより、日中子どもが過ごす場所の違い(自宅、保育所や幼稚園、学校)、退院後の期間や家族構成、利用している社会資源など、年齢をはじめ詳細な背景を踏まえた分析を行うことが、今後の課題である。

## 謝辞

本研究にご協力いただきましたお父様とお母様、A病院小児科外来のフォローアップ検診を担当されている医師はじめ外来看護師とスタッフの皆様に、深く感謝申し上げます。

本研究は、平成22~24年度文部科学省研究費補助金(若手B課題番号22792222)の助成を受けて行った研究の一部である。

利益相反に関する開示事項はありません。

## 文献

- [1] 母子衛生研究会.母子保健の主なる統計(平成25年度),2013
- [2] 網塚貴介.周産期医療の成果と評価 我が国の周産期医療の問題点とその解決-新生児医療-,38(1):105-110,2008
- [3] 尾形和男,宮下一博.父親の協力的関わりと子どもの共感性および自我同一性 家族機能も含めた検討.家族心理学研究,14(1):15-27,2000
- [4] 衛藤隆代表.幼児健康度に関する継続比較研究平成22年度総括・分担報告書,平成22年度厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業,2011
- [5] 及川裕子,久保恭子.乳幼児を持つ母親の精神健康状態と生活満足度,園田学園女子大学論文集.47:85-93,2013
- [6] 小泉武宣,ハイリスク家庭への周産期からの援助に関する研究,厚生科学研究,虐待の予防、早期発見及び再発防止に向けた地域における連携体制の構築に関する研究,平成11年度研究報告書,2000
- [7] 横尾京子,“ファミリーケアの実践的意味”NICUチームで取り組むファミリーケア家族のはじまりを支える医療,堀内勁編集,Neonatal Care 春季増刊号,11-12,メディカ出版,2002
- [8] 藤村正哲,Nursing Note,43,メディカ出版,2007
- [9] Shirasaka M, Kuwata H. Difficulty of the NICU nurse who supports long term hospitalized children and family. The MHS 2016 Book of Proceedings, 2017(in preparation)
- [10] 白坂真紀,桑田弘美.NICUを退院した双子を養育する父親の育児の実際,日本小児看護学会誌.22(1):116-121,2013
- [11] 船橋恵子,父親現在 渡辺秀樹編集,変容する家族と子ども,教育出版社,1999

[12]尾形和男,父親の心理学,第10章未来志向の父親1  
節父親に求められる役割の構造的変化,133-135,  
北大路書房,2011

表 1. この一カ月間の気持ちや体調

質問内容	回答項目	全体 (n=295) 人数(%)	父親 (n=147) 人数(%)	母親 (n=148) 人数(%)	$\chi^2$ 値	P 値
この一カ月間のご自身の 気持ちや体調はいかが ですか	心身ともに快調	168(57.0)	91(61.9)	77(52.0)	3.476	0.482
	体の調子は良いが気分は不調	17(5.8)	8(5.4)	9(6.1)		
	気分は良いが体は不調	49(16.6)	22(15.0)	27(18.2)		
	心身ともに調子が悪い	24(8.1)	9(6.1)	15(10.1)		
	何とも言えない	37(12.5)	17(11.6)	20(13.5)		

 $\chi^2$  検定

表 2. 子育ての楽しさ

質問内容	回答項目	全体 (n=296) 人数(%)	父親 (n=149) 人数(%)	母親 (n=147) 人数(%)	$\chi^2$ 値	P 値
子育ては楽しいですか	楽しい	242(81.8)	126(84.6)	116(78.9)	2.324	0.313
	何とも言えない	53(17.9)	23(15.4)	30(20.4)		
	楽しくない	1(0.3)	0(0.0)	1(0.7)		

 $\chi^2$  検定

表 3. 子育ての困難感

質問内容	回答項目	全体 (n=297) 人数(%)	父親 (n=149) 人数(%)	母親 (n=148) 人数(%)	$\chi^2$ 値	P 値
子育てに困難を感じるこ とがありますか	感じるこ とがある	102(34.3)	48(32.2)	54(36.5)	0.876	0.645
	何とも 言えない	93(31.4)	50(33.6)	43(29.1)		
	感じる ことはない	102(34.3)	51(34.2)	51(34.5)		

 $\chi^2$  検定

表 4. 自分のために使える時間の有無

質問内容	回答項目	全体 (n=297) 人数(%)	父親 (n=149) 人数(%)	母親 (n=148) 人数(%)	$\chi^2$ 値	P 値
自分のために使える時間 を もっていますか	時間をも っている	148(49.8)	84(56.4)	64(43.2)	9.728	0.008**
	何とも 言えない	79(26.6)	41(27.5)	38(25.7)		
	時間をも っていない	70(23.6)	24(16.1)	46(31.1)		

 $\chi^2$  検定 \*p<0.05 \*\* p<0.01

表 5. 父親の育児関与

質問内容	回答項目	全体 (n=297) 人数(%)	父親 (n=147) 人数(%)	母親 (n=150) 人数(%)	$\chi^2$ 値	P 値
お父様は育児をしていますか	よくしている	128 (43.1)	50 (34.0)	78 (52.0)	10.290	0.006**
	時々している	149 (50.2)	87 (59.2)	62 (41.3)		
	殆どしない	20 (6.7)	10 (6.8)	10 (6.7)		

$\chi^2$  検定 \*p<0.05 \*\* p<0.01

表 6. 父親の母親への精神的支援

質問項目	回答項目	全体 (n=296) 人数(%)	父親 (n=147) 人数(%)	母親 (n=149) 人数(%)	$\chi^2$ 値	P 値
お父様はお母様の相談相手、 精神的な支えになっていると 思いますか	そう思う	188(63.5)	80(54.4)	108(72.5)	12.584	0.002***
	何とも言えない	87(29.4)	57(38.8)	30(20.1)		
	そう思わない	21(7.1)	10(6.8)	11(7.4)		

$\chi^2$  検定 \*p<0.05 \*\* p<0.01 \*\*\* p<0.005